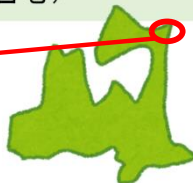


産地生産基盤パワーアップ事業の取組事例(令和2~3年度:計画作成主体: 東通村農業再生協議会)

取組の概要

対象品目 : 施設野菜(いちご)(産地面積1.70ha)
 主な取組主体: 夏秋いちご農家4戸
 成果目標 : 総販売額の10%以上の増加
 基準(H30年度) 49,623千円
 目標(R4年度) 66,079千円
 導入施設等 : 生産支援事業
 (リース)自動かん水装置 一式(8棟制御)
 (資材費)自動巻上部材(7棟分)、パイプハウス
 (6.3m×50m、8棟分)、(自動巻上部材、
 遮光資材を含む)

青森県
東通村
東通村地区



ポイント

【産地の課題及び取組方向】

この地域は、やませの影響による夏季冷涼な気候を生かし、夏秋いちごの産地化を目指している。これまで先進的大規模農業者が中心となり産地を発展させてきたが、近年、新規就農者が夏秋いちご栽培を始めたことで、更なる産地の拡大が期待されている。

新規就農者を中心に経営規模の拡大が課題となっているため、農業用ハウスの新設による規模拡大を推進し、自動かん水装置及び自動換気装置等を導入することでいちごの高品質化、省力化及び生産量の増加を図り、販売金額の10.0%以上の増加を実現する。また本計画の効果的な実施に向け、地域関係者(十和田おいらせ農協、東通村、下北地域県民局等)が一体となって事業推進に努めるものとする。

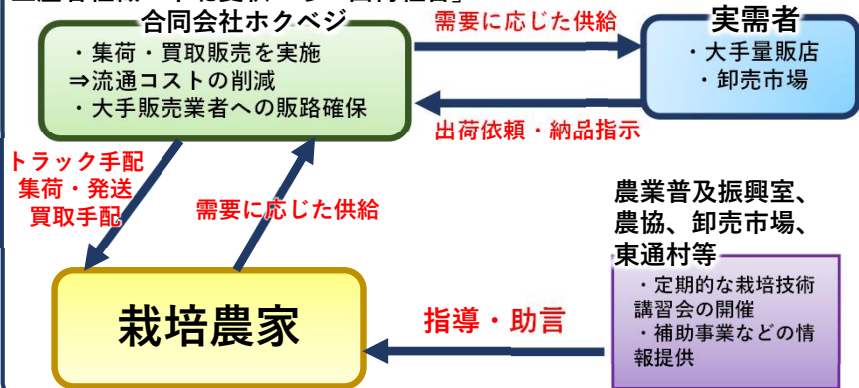


【産地の体質強化に向けた方策】

- ①担い手が施設野菜「夏秋いちご」を規模拡大するのに必要な資材、リース導入支援
- ②労働時間短縮のため自動かん水装置、自動巻上部材を導入

産地体制

生産者組織「下北夏秋いちご出荷組合」



地域における独自の取組

〈主な取組〉

- ・選果基準及び栽培マニュアル作成
- ・定期的な栽培技術講習会の開催

取組成果

【事業実施による直接効果】

- ①資材・リース支援による初期投資の節減効果
- ②資材導入による労働時間の短縮

【事業実施による間接効果】

- ①担い手による作付面積が拡大し、生産量が増加
- ②施設野菜「夏秋いちご」の高品質化により、引き合いが更に高まり、販売単価が増加



総販売額が
33.2%増加

